

付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ情報

平成25年10月19～28日に陸奥湾4定点で第2回付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、各地の出現数は図2のとおりです。蟹田沖で1.4個/トン、奥内沖で3.1個/トン、久栗坂沖、川内沖では0個/トンでした。

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ザラボヤ、ネンエキボヤ、オベリア類(通称「クサ」)は見られませんでした。

表1 その他付着生物のラーバ等の出現数 単位: 個/トン

調査地点	調査月日	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類
蟹田沖	H25.10.19	0.0	0.0	0.0
奥内沖	H25.10.25	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H25.10.28	0.0	0.0	0.0
川内沖	H25.10.28	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの10月30日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(10/30)

観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)
平館ブイ	18.5	東田沢ブイ	-	横浜ブイ	17.4
蓬田ブイ	-	清水川ブイ	-	浜奥内ブイ	17.7
奥内ブイ	-	野辺地ブイ	-	川内ブイ	18.0
青森ブイ	18.1	東湾ブイ	17.8	脇野沢ブイ	-
浦田ブイ	-				

※奥内、浦田、野辺地、浜奥内は10m層、それ以外は15m層の値

3 今後の見込み

水温が20℃を下回ったことから、各地でユウレイボヤの産卵が進んでいるものと考えられますが、ラーバの出現数は少ない状況となっています。

今後のラーバの出現動向については、次回(11月中旬発行予定)の情報を参考にしてください。

4 参考(トピックス)

【オベリア類(通称「クサ」)】

養殖簗などに付着して漁業者の皆さんを困らせるクサと呼ばれるものは、海草ではなくクラゲの仲間であるハイドロゾア(ヒドロ虫)という生き物の1種で、オベリアと呼ばれる種類です。

生態はまだ明らかになっていませんが、以下のようなことが分かってきています。

- ・増殖時期になると本体にクラゲ芽を形成し、オスとメスのクラゲ(全長0.4～2mm)を放出する。
- ・クラゲは卵と精子を放出し、受精してラーバとなり、海中の物に付着して成長するとクサとなる。
- ・陸奥湾では年に3回、クラゲが見られる。

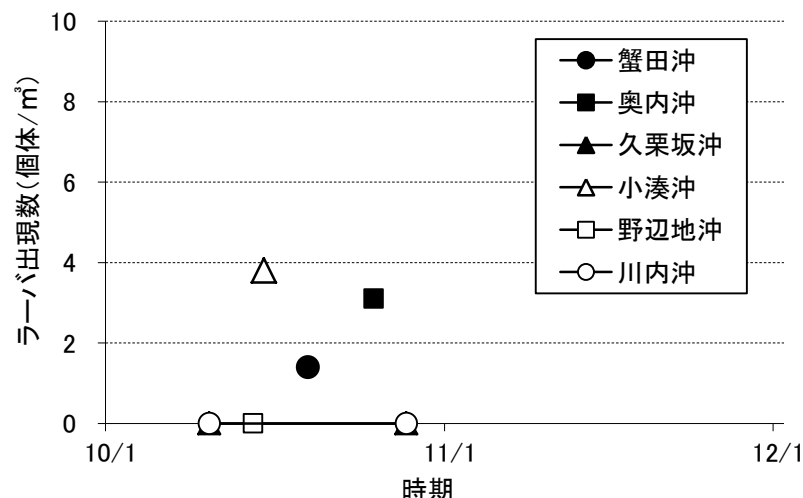


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

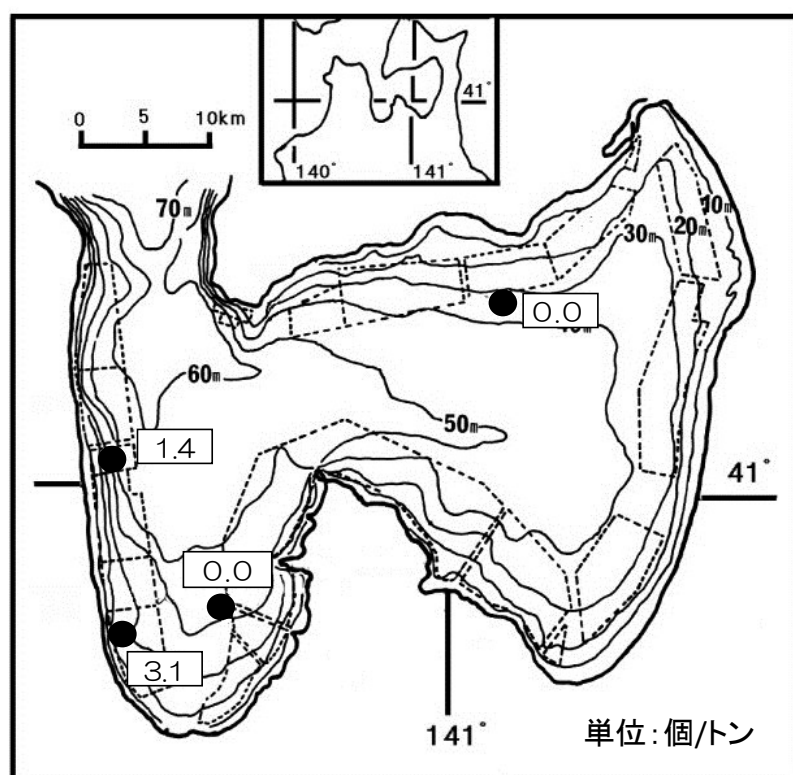


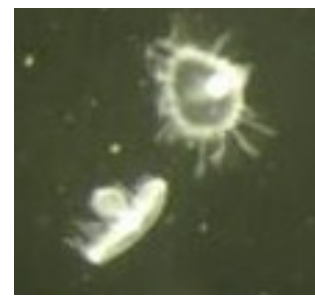
図2 調査地点別のユウレイボヤラーバ出現数



①オベリア類(クサ)の本体



②本体に形成されたクラゲ芽



③放出されたクラゲ

